

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年11月17日

【評価実施概要】

事業所番号	4070702818
法人名	株式会社 シダー
事業所名	あおぞらの里 グループホーム 黒崎
所在地 (電話番号)	北九州市八幡西区黒崎4丁目4番8号レーベント黒崎2階 (電話) 093-645-1612
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成21年10月8日

【情報提供票より】(平成21年8月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 11月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤 3人, 非常勤 7人, 常勤換算 6.19人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独	<input checked="" type="radio"/> 新築	<input type="radio"/> 改築
建物構造	鉄筋コンクリート		造り
	7階建ての	2階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	10,500 円	
敷金	<input checked="" type="radio"/> 有 (300,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有 () 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,575 円			

(4) 利用者の概要(平成21年8月31日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	3名	要介護2	1名		
要介護3	1名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 88歳	最低	81歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福岡新水巻病院、尾畑外科胃腸科医院、原田歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人は、地域に根差したサービスを全国的に展開している。当事業所はビルの2階を借りきったグループホームである。街なかにあることやJR黒崎駅に近いことから家族の訪問は多い。月1回の利用料請求時には、利用者一人ひとりに日々の記録を送って暮らしの様子を知らせ、家族が安心できるようにしている。また、毎年、家族と利用者一人ひとりに目標を言ってもらい、この目標からニーズ拾いを行っている。また、その延長線上で職員にも一人ひとり目標を考えてもらい、最終的に年度のホームの目標をつくっており、利用者・家族・職員みんなで自分たちのグループホームづくりに取り組んでいる。若い管理者の柔軟な考え方が、認知症の人のケアやホームの運営に伸びしろとなっており、今後が期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を受け、排泄介助時のプライバシーに関してはホーム全体で見直し、新しい職員も周知できている。食事を楽しむ支援でも改善されている。市町村との連携では、市直轄の地域包括支援センターと相談する関係ができています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は自己評価・外部評価の意義を職員に説明し、正規職員以外の職員には「サービスの成果に関する項目」を配布し、記入後、話し合っ一つのものにしている。その他の項目は、管理者と正職員の二人で話し合っ作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2カ月に1回第4日曜日と決めて開催している。町内の会長と役員・民生委員・地域包括支援センター・利用者とその家族の参加を得ている。運営推進会議の後、簡単な食事で交流会をしており、家族は半数が参加している。ホームの報告やテーマを決めて勉強会をしており、質問や悩み相談が出てきて、徐々に認知症ケアについて理解していただいている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	契約時にホーム内や外部の苦情相談窓口の説明を行っている。家族から意見をもらう方法として、アンケートをしたり、家族に利用者の暮らしぶりの報告をする時、返信用紙を入れるなどしている。もらった意見はホーム内で検討したり、運営推進会議に家族の意見を出したりして、ケアや運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、地域の行事、祇園まつり、敬老会の行事等に参加して交流をしている。利用者と一緒に近くのお茶屋さんに出向き、アイスクリームを食べたり、行きつきのパン屋さんに行ったりしており、顔見知りになっている。年2回の避難訓練の際、マンションの住民や近隣住民にも協力を呼び掛けている。現在、ホームの管理者が町内会の防災訓練に参加して、地域との連携に努めている。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に法人がつくった当グループホームの理念3項目に、一部の職員ではあるが、話し合っ「地域の協力のもと暮らしやすい環境を提供いたします」という4項目の理念をかかげている。さらに、どのように援助していったらいいのかを全職員でかかわって、「スタッフ理念」5項目をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新採用者があった時、ミーティング参加者みんなで理念を確認している。また、ケアや運営のことで問題と思う時、理念に立ち返っている。スタッフルームにも理念を掲げているので、常に見ている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域の行事、祇園まつり、敬老会の行事等に参加して交流をしている。利用者と一緒に近くのお茶屋さんに出向き、アイスクリームを食べたり、行きつけのパン屋さんに行ったりしており、顔見知りになっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価・外部評価の意義を職員に説明し、パート職員には「サービスの成果に関する項目」を配布し、記入後、話し合っ一つのものにしている。その他の項目は、管理者と正職員の二人で話し合っ作成している。前回の課題については、前向きに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1回、第4日曜日と決めて開催している。町内の会長と役員・民生委員・地域包括支援センター・利用者とその家族の参加を得ている。運営推進会議の後、簡単な食事で交流会をしており、家族は半数が参加している。ホームの報告やテーマを決めて勉強会をしており、質問や悩み相談が出てきて、徐々に認知症ケアについて理解してもらっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進協議会で地域包括支援センターの職員が毎回参加されるので繋がりができ、相談しやすくなっており、何かあれば相談している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は外部研修に参加しているが、職員に伝達研修等をしていない。そのため必要な時に支援できる体制が万全とはいえない。家族にも権利擁護に関する制度の情報提供等がなされていない。	○	職員には勉強会を開催したり、機会あるごとに説明を行い、必要な時に支援できる体制ができるよう全職員が理解をしておくことが望まれる。また、家族にも機会をとらえて周知したり、ポスターやパンフレットを設置するなどして、情報の提供が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々の暮らしぶりは利用料請求と共に、個人別記録や毎月の「おたより」にて郵送で報告している。家族の訪問時には様子を見ていただいたり、日々の報告もしている。健康状態は随時報告している。運営推進会議の記録も送っている。預かり金は、出納長を見せ、サインまたは印鑑をいただいている。職員の異動は、家族の訪問時や運営推進会議にて紹介するとともに、ホーム入口の所に名前と写真を掲げている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時にホーム内や外部の苦情相談窓口の説明を行っている。家族から意見をもらう方法として、アンケートをしたり、家族に利用者の暮らしぶりの報告をする時、返信用用紙を入れるなどしている。もらった意見はホーム内で検討したり、運営推進会議に家族の意見を出したりして、ケアや運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの職員が退職した場合、利用者の混乱が大きいので「この人でなければダメ」という極端な依存関係にならぬよう気を付けている。また、新人職員と利用者が信頼を構築できるように他の職員が援助をしている。また、職員の氏名と顔写真をホーム入口に掲げており、家族・利用者共に出入りの際、見ることができるようになっている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集や採用については性別や年齢を理由に排除することはなく、現在、職員の年齢は10代から60代と幅広く、男性も3名勤務している。採用にあたり、1日体験してもらい、その間観察するとともに、当ホームで「働きたい」意思を自ら確認してもらっている。資格取得に向けては、取り組む職員には勤務調整を行い、自己実現に向けて配慮している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	グループホーム協議会の研修で人権について学ぶ機会があるが、伝達研修はしていない。また、人権教育・研修ということでは研修をしていない。	○	介護関係の人権研修だけでなく、市・県等主催の研修等も開催されているので職員が交代で参加したり、伝達研修を行ったりして人権教育・啓発に取り組まれることが望まれる。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て、2か月に1回勉強会を開催している。管理者や常勤職員が外部研修に参加した後、ミーティングで簡単に伝えている。今後、職員のレベルに応じた研修の予定がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、意見交換や交流をしている。勉強会には、非常勤職員も参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学をしてもらっている。家族のみの見学の場合は、自宅に訪問して顔なじみになるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のできる洗濯物たたみやおやつづくりなどは一緒にしている。職員が落ち込んでいる時、利用者が気づいてくれ、「どうした？」と心配してくれたり、励ましてくれたりする。喜怒哀楽をともにし、支えるだけでなく、利用者からも支えてもらう関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	洗濯物を一緒にたたみながらや家事を手伝ってもらいながら、日常的に会話の中で利用者の思いや意向を聴き把握している。意志の疎通が困難な利用者に対しては、日頃の表情から想いをくみ取ったり、家族の協力を得、情報提供をもらったうえで利用者の意向に添えるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎年、利用者や家族に一年の抱負として意向・希望を聴き、それを大きなニーズと捉えている。介護計画については管理者がアセスメントし作成した介護計画原案を全職員で確認し、職員の意見も反映させている。また、本人の意向や家族からの要望も取り入れ、利用者本位の介護計画となっている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヵ月に1回のモニタリングを行い、6ヵ月ごとに見直しをしている。具体的なケアについては日々の生活の中で情報交換をし変更していくこともある。大きな変化があった時には、家族や医療関係者と話し合い、必要に応じて介護計画の見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族から、利用者と外出・外泊をしたくても不安があるとの相談があったので、車の乗降の仕方やケアのアドバイスをすると家族での外出も増えてきた。定期受診は基本的に家族付き添いをお願いしているが、近隣医院の受診や、緊急時は職員が付き添いをし、家族に報告をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診継続は可能であり、手紙や電話で情報交換をする等かかりつけ医の先生とも連携が取れている。また、往診もあり、近くが良いからとホームの協力医に変更される利用者もおられ、本人や家族の希望に添って支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでの看取りの経験は無いが、本人・家族の意向を聴き、重度化や終末期の話し合いは少しずつ出来ている。かかりつけ医・協力医の医療関係者や管理者・全職員も看取りについての方針は共有しており、体制は出来ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	前回の評価を受け、排泄介助・入浴介助時のプライバシーに関してはホーム全体で見直し、新しい職員も周知できている。言葉かけや対応は堅苦しくならないよう尊敬の意を表しながらも親しみをもって接している。記録や個人情報等に関しては、スタッフルームや施錠できるロッカーに保管してあり、取扱いには十分配慮している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩の要望がある時は、その日の体調・天候に合わせて支援している。最近では、パンやドーナツを買いに行くのを楽しみにしている方が居られ、預かり金の中からお小遣いを持って職員と一緒に買い物を楽しんでいる。また、利用者の表情やタイミングを見ながら活動を促したり、声かけをしながら気分転換が出来るよう心がけている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に数回手作りの日は有るが、通常は昼・夕食は仕出しを利用している。食事介助をしながら職員も出来るだけ一緒に食卓を囲むようにしている。ご飯茶わんとお箸は、誕生日や父の日・母の日にホームからプレゼントされ、家庭的な食卓になるよう工夫している。また、週に1度の手作りおやつの日を設け利用者と一緒につけて楽しんでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の気分や体調に合わせて、声かけをしながら週に2回から3回の入浴を支援している。職員配置の関係もあり、日中入浴が基本となっているが、希望があればいつでも入浴できるようにしていく予定である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人の利用者が洗濯物をたたむと他の人も一緒に手伝ったり、手作りご飯の日はメニューを考えたり、おにぎりを作ったりと、それぞれの力を活かした役割を持っている。また、毎日手作りの日めくりカレンダーをめくり日付の確認をされる方や押し花で絵を作られたり、替え歌で作詞をして他の利用者や職員を楽しませたりと、趣味多才な方も居られ楽しみながら過ごせる支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候の良い時には声かけをし、職員と一緒に散歩や買い物に出かけている。今年は、残念な事に新型インフルエンザの予防のため週1回から2回程度に外出を控えている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は夜勤者一人のため、防犯のために夜間は玄関・非常口の施錠をしている。日中は、玄関・居室・非常口にも鍵はかかかっておらず、開放的な生活を支援している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署立会いのもと、マンションの管理者と共に協力し避難訓練を行っている。マンションの住民や近隣住民にも協力を呼び掛けているが参加に至っていない。現在、ホームの管理者・隣接の同法人デイサービスの職員が、町内会の防災訓練に参加するなどして地域の方への理解を得られるよう努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は仕出し注文が中心だが、栄養バランスを考えカロリー計算がされている。現在は不要だが、必要となれば糖尿病食・高血圧食など特別食依頼も可能である。食事摂取量や十分な水分摂取が確認できるよう記録され健康管理の支援も出来ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒に作った、季節を感じられるカレンダーが掲示してあったり、利用者の想いが書かれた写真が飾ってあったりと暖かい空間づくりが出来ている。食卓とリビングの共用スペースは程よい明るさが保たれ、二人掛けのソファや一人でゆっくり出来るイスも置いてあり、思い思いに過ごせるような工夫がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みのある使い慣れた家具や仏壇などを持参され、家族とも相談のうえ利用者が使いやすいように配慮されている。家族の写真を飾ったり、友達に貰った手作りのお人形を飾ったりと、居心地よく過ごせるよう支援されている。</p>		